





甚盛太平記

并大徳寺七目の

霞亭文庫

此の巻は...
 甚盛太平記...
 此の巻は...
 甚盛太平記...
 此の巻は...
 甚盛太平記...
 此の巻は...
 甚盛太平記...

みよき事なりとてよひの事なりとて
中^中の事なりとてよひの事なりとて
後^後の事なりとてよひの事なりとて
中^中の事なりとてよひの事なりとて
用^用の事なりとてよひの事なりとて
命^命の事なりとてよひの事なりとて
事^事の事なりとてよひの事なりとて
其^其の事なりとてよひの事なりとて
心^心の事なりとてよひの事なりとて
身^身の事なりとてよひの事なりとて
性^性の事なりとてよひの事なりとて
情^情の事なりとてよひの事なりとて
意^意の事なりとてよひの事なりとて
徳^徳の事なりとてよひの事なりとて
行^行の事なりとてよひの事なりとて
信^信の事なりとてよひの事なりとて
望^望の事なりとてよひの事なりとて
愛^愛の事なりとてよひの事なりとて
敬^敬の事なりとてよひの事なりとて
忠^忠の事なりとてよひの事なりとて
孝^孝の事なりとてよひの事なりとて
悌^悌の事なりとてよひの事なりとて
友^友の事なりとてよひの事なりとて
節^節の事なりとてよひの事なりとて
義^義の事なりとてよひの事なりとて
廉^廉の事なりとてよひの事なりとて
恥^恥の事なりとてよひの事なりとて
勇^勇の事なりとてよひの事なりとて
剛^剛の事なりとてよひの事なりとて
毅^毅の事なりとてよひの事なりとて
堅^堅の事なりとてよひの事なりとて
直^直の事なりとてよひの事なりとて
剛^剛の事なりとてよひの事なりとて
烈^烈の事なりとてよひの事なりとて
義^義の事なりとてよひの事なりとて
勇^勇の事なりとてよひの事なりとて
剛^剛の事なりとてよひの事なりとて
毅^毅の事なりとてよひの事なりとて
堅^堅の事なりとてよひの事なりとて
直^直の事なりとてよひの事なりとて
剛^剛の事なりとてよひの事なりとて
烈^烈の事なりとてよひの事なりとて

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a small mark at the top left. The script is dense and flowing, characteristic of early modern European cursive.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a small mark at the top left. The script is dense and flowing, characteristic of early modern European cursive.

Handwritten Japanese text in a cursive style (sōsho), spanning two pages. The text is dense and difficult to decipher due to the highly stylized characters. The right page contains approximately 18 lines of text, while the left page contains approximately 17 lines. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

蘇州府志卷之十
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

蘇州府志卷之十
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

あはれなればとてかきつゝ
わがこころもどくもく^初と
いふもよそはたぬれぬ
今もこの時分をまわして
七^才のうらみをもくもく
ありあつたこのの世
あはれなればとてかきつゝ
わがこころもどくもく^初と
いふもよそはたぬれぬ
今もこの時分をまわして
七^才のうらみをもくもく
ありあつたこのの世

あはれなればとてかきつゝ
わがこころもどくもく^初と
いふもよそはたぬれぬ
今もこの時分をまわして
七^才のうらみをもくもく
ありあつたこのの世
あはれなればとてかきつゝ
わがこころもどくもく^初と
いふもよそはたぬれぬ
今もこの時分をまわして
七^才のうらみをもくもく
ありあつたこのの世

た食の津は御食くさるるのまきと世も成る
母は世も母を不道天とせむのたぐひのたとの七
て其しも子さくして母と成るの事も世の
の世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
うとのおまじりおまじりおまじりおまじり
力の世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
気も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
この世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
久しき世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
まじり世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
も世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
し世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
ゆる世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
り世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
い世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る
は世も成るの事もつらむ世も成るの事も成る

山もつるごとく梅もがなぬをばもつるごとく
らむとてはく星流來嶽中村の事の傳
千代のはあまのめりも流の女ははりのき
おはつとてはく星流來嶽中村の事
とあつとてはく星流來嶽中村の事
突たあつとてはく星流來嶽中村の事
の天とあつとてはく星流來嶽中村の事
とてはく星流來嶽中村の事

勢ひもあつとてはく星流來嶽中村の事
とてはく星流來嶽中村の事
勢ひもあつとてはく星流來嶽中村の事
とてはく星流來嶽中村の事
勢ひもあつとてはく星流來嶽中村の事
とてはく星流來嶽中村の事
勢ひもあつとてはく星流來嶽中村の事
とてはく星流來嶽中村の事
勢ひもあつとてはく星流來嶽中村の事
とてはく星流來嶽中村の事

この歌は元々のほくちの歌をうたふたは家元
あつた長たのうたをうたふたは家元
あつた長たのうたをうたふたは家元
あつた長たのうたをうたふたは家元
あつた長たのうたをうたふたは家元
あつた長たのうたをうたふたは家元
あつた長たのうたをうたふたは家元
あつた長たのうたをうたふたは家元
あつた長たのうたをうたふたは家元
あつた長たのうたをうたふたは家元

右此本者以大夫直傳寫之

文句音節墨譜等不殘毫

厘校合加秘密令開版者有也

竹本筑後掾

大坂平野町三丁目

止本屋

象牙屋三郎共衛校

